

岡山県議会議員

秋山まさひろ

県議会だより



11月30日～12月22日
令和3年11月 岡山県議会定例会

事務所：〒712-8066 倉敷市水島高砂町1番7号 TEL：(086)448-8833 発行人：秋山 正浩

令和3年11月岡山県議会定例会が11月30日から12月22日までの23日間で開催されました。

今回の定例会におきまして、私の所属する「民主・県民クラブ」を代表し、質問に立ち、以下の内容について執行部より答弁を受けましたので、質問・答弁内容の要旨を一部ご紹介いたします。

予算編成方針について

地域経済の立て直しについては、県民が前向きな気持ちになり、県民生活の向上につながるよう予算措置がされるべきと考えるが、所見を伺いたい。県独自財源の確保については、国に対し、独自財源確保の重要性を訴えらるとともに、財政支援を強く要望して頂きたい。特に、令和5年度以降の地方財政対策の動向は、地方自治体として中期を見据えた財政計画

を立てるうえで大変重要な課題と考える。現時点における国からの財政支援の見通しについて伺いたい。



【答弁】伊原木知事

限られた財源を、真に必要な分野へ重点的に配分することにより、教育の再生や産業の振興など、生き活き岡山の実現に向けた取り組みを加速させるとともに、ウイズコロナ・ポストコロナを見据えた施策にも取り組んでまいります。また、財源の確保については、骨太

の方針において、令和6年度まで地方一般財源総額同水準ルールが継続されたところであり、現在、国において検討されており、その動向を注視してまいります。引き続き、国に対しては、全国知事会などさまざまな機会を捉え、必要な財政措置を要望してまいります。

新型コロナウイルス感染症について

感染再拡大への対応について、政府のコロナ対策の全体像は、さらなるコロナ病床や宿泊療養施設の確保、検査体制の拡充などを掲げているが、県としてどのように対応していくのか伺いたい。また、ワクチン接種が進み、経口薬の開発・承認も視野に入中、今後は、軽症や無症状の患者が自宅で療養するケースが増えてくると考える。自宅療養者の健康観察や診療

などの体制整備が求められるが、どのように取り組むのか、併せて所見を伺いたい。



【答弁】伊原木知事

第5波のピーク時の病床使用率は5割程度にとどまったものの、今後の感染拡大に備え、必要な病床や宿泊療養施設、検査体制の確保に努めてまいります。また、自宅療養者については、引き続き、健康観察業務の効率化や、地域の医療機関による診療体制の構築に取り組んでまいります。

子どもへのワクチン接種については、国内においても接種対象（5歳～11歳）を広げるよう製薬会社が厚生労働省に承認申請をしている。子どもは、重症化するケースは少なく、接種のメリットが副反応のリスクを上回るのが確信を持って、接種を見送るケースも少なくなくと考える。また、自らの判断することは難しく、本人の希望に基づく接種という原則を貫くことは不可能である。さまざまな不安や心配の声に耳を傾け対策を講じるべきと考えるが、現在の国の動向や県の考え方について伺いたい。

【答弁】伊原本知事

国においては、接種の在り方を巡り、議論が継続しており、先行して小児への接種を実施している諸外国の有効性・安全性に係るデータなども踏まえ、適切な方針が決定されるものと考えています。

す。県としては、国の議論を注視しつつ、方針が決定された際には、希望する方が速やかに接種できる環境を整えておく必要があると考えており、市町村と連携し、準備を進めてまいります。



地域公共交通について

地域公共交通のデジタル化については、地域公共交通の維持・確保に向けた「第2次交通政策基本計画」において、交通分野におけるデジタル化への遅れが問題提起され

ている。本県の取り組みについて伺いたい。公共交通機関に頼らざるを得ない交通弱者への対策については、喫緊の課題であり、広域的な視点を持ち、市町村等への助言や支援を行う、県の役割は重要な取組み等があるが、具体的な取組み等を伺いたい。

【答弁】伊原本知事

デジタル化については、スマートフォンを使った乗換案内サービスの充実等に向け、交通関連情報のオープンデータ化に取り組んでいるところであります。今後とも、地域公共交通のデジタル化を積極的に推進してまいります。また、交通弱者対策については、国等との役割分担の下、広域的・幹線的なバス路線等の維持・確保に努めるとともに、市町村が行う地域内の公共交通ネットワークの整備への支援や、地域公共交通会議等における助言等を行って

います。今後とも、多様な主体と連携・協働しながら、交通弱者が利用しやすい移動手段の確保に向けて取り組んでまいります。

盛土への対応について

静岡県熱海市で7月に発生した盛土の崩落による土石流災害は、違法な盛土が発生の一因と言われている。それを受け本県では、盛土の災害危険性の有無を確認する総点検を実施した。今回実施した総点検の結果および今後の対応スケジュールについて伺いたい。

【答弁】伊原本知事

盛土及び盛土の可能性がある約1,200箇所のうち、11月末時点で、約7割の点検を終えたところであり、これまで、災害の危険性がある盛土は確認されておりません。残る箇所も早急に点検を進め、危険な盛土が

確認された場合などには、状況に応じて、住民に周知するとともに、改善措置を求めるなど必要な対策を迅速に講じてまいります。

地域経済について

県内製造業が地域経済に与える影響は大きく、

これまでの間、さまざまな支援策が講じられたことから、何とか持ちこたえられているものの、依然として厳しい状況にあると認識している。現在、感染拡大防止と社会経済活動の両立を目指し、新たなフェーズに向けて動き出しているが、抑制的な消費行動が続いていることが報じられ、今後、地域経済を循環させるためにも、繊維製品や工業製品などの県内製造品の需要を喚起させる支援が求められている。多くの県民に県内で生産されている製品を知っていただ

き、購入していただくための支援策が必要と考えますが、所見を伺いたい。



【答弁】伊原本知事

コロナ禍での需要喚起を図るため、デニム製品や工芸品、雑貨などを特典付きで販売するオンラインキャンペーンを実施しているところであります。今後、県内製造品をSNS等で紹介し、購入を促すためのプロモーションを行うなど、一層の需要喚起に取り組み、消費マインドの回復につなげてまいります。

地域交通を活用した
観光振興策について



新型コロナウイルス感染症の影響により、路線バスや路面電車はもとより、貸切バスや高速バスにおいても、今なお、利用者が大きく減少し、本格的な回復には時間がかかると言われている。また、原油価格の高騰により、さらに経営が逼迫している。地域交通は、地域住民の移動手段としての役割はもちろん、観光業等の経済活動を支える重要なインフラであり、

将来にわたり維持・確保していく必要があると考える。来年度には「岡山デスティネーションキャンペーン」の開催を控えていることから、タクシーや観光バス、高速バスを組み込んだ観光商品の開発など、地域交通を活用した観光振興策の検討はできないか、所見を伺いたい。

【答弁】伊原木知事

令和4年の岡山デスティネーションキャンペーン本番に向け、タクシーで行くフルーツ狩りツアーや、バスによる吉備路周遊など、地域交通と観光素材を組み合わせた企画を市町村等と連携して準備しているところです。今後、こうした企画を磨き上げ、広く情報発信するなど、より多くの方に、地域交通を活用しながら、本県の魅力ある観光スポットを周遊していただけるよう取り組んでまいります。

スクールカウンセラー
等の常勤化について

本年3月に文部科学省が実施した「スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究」の報告書では、早期発見・早期対応が可能となることが示唆されている。また、教職員間の協働や教育相談体制が充実するといった効果が期待されている。児童虐待、いじめ、貧困の問題など、児童生徒を取り巻くさまざまな課題を早期に対応していくため、スクールカウンセラー等の常勤化に向け、所見を伺いたい。

【答弁】教育長

スクールカウンセラー等の活用は、不登校等への早期対応につながることを考えていることから、配置の拡充や効果的な活用に努めてきたところで、常勤化については、

国の事業においても非常勤の配置を想定しており、安定的な人材養成等にも課題があるため、現時点では考えておりませんが、引き続き、国の動向等を注視しつつ、教育相談体制の充実に努めてまいります。



通学路の安全対策について

本年6月、千葉県八街市の通学路において、痛ましい交通事故が発生した。この事故を受けて、危険箇所の抽出に際し、新たな観点が追加された

が、改めて点検を実施し、対策が必要な危険箇所数など、現状について伺いたい。

【答弁】教育長

新たな観点を踏まえた対策必要箇所数は、10月末時点で、全県で約1,300箇所となっております。現在、市町村教育委員会、学校、道路管理者及び地元警察等が連携しながら対策案を検討・作成しているところであり、そのうち、通学路の変更など可能なものについては、速やかに対策を講じているところであり、ます。

スムーズ横断歩道について

本年9月、津山市のゾーン30エリアにおいて、車の走行速度の低減を図るとともに、歩道と横断歩道の段差が減少することで、スムーズに通

行ができる「スムーズ横断歩道」の実証試験が県内で初めて実施された。スムーズ横断歩道の効果や課題、さらには、今後の設置計画等について伺いたい。また、今後の実証試験計画について、併せて伺いたい。

【答弁】警察本部長

実証試験結果については、現在、国土交通省において、その検証を行っているところであり、結果を踏まえ、道路管理者と検討を進めてまいります。また、実証試験の計画については、現在のところ承知しておりません。



知事提案説明要旨(抜粋)

新型コロナウイルス感染症について

令和3年11月30日時点における、感染状況について、感染拡大防止対策について、医療提供体制について、ワクチン接種について、事業者への支援について、文化芸術・スポーツに親しむ機会について述べられ、この項最後に、「あらためまして、これまでの医療従事者をはじめとする関係の皆様、御尽力、県民及び事業者の皆様、御理解と御協力に感謝申し上げます。感染症との長い闘いは、まもなく2年を迎えることとなりますが、強い感染力を持つ可能性のある変異株が国内で新たに確認されるなど、引き続き、予断を許さない状況にあります。県民の命と健康を守り、安心して過ごせる日常生活と、活力ある社会経済活動を取

り戻すため、今後とも全力を尽くしてまいります。」と述べられました。



教育県岡山の復活について

県立高等学校の魅力づくりについては、中学生から選ばれる高校となるよう、時代の変化に対応した新しい教育内容の研究をはじめ、地域や地元自治体・大学等との連携・協働を推進しており、外部との連携等による特色ある探究活動の取り組みを発表する高校生探究フォーラムを開催し、中学生やその保護者へ県立

高等学校の魅力が発信してまいります。

地域を支える産業の振興について

企業誘致については、久米産業団地や笠岡港工業用地、真庭産業団地において新たな誘致が決定するとともに、市町村営団地においても立地が相次いで実現するなど、着実に成果を上げております。引き続き、企業ニーズに対応した用地提供に向け、産業用地の確保に努めるとともに、さらなる誘致に向け、あらゆる機会を捉えて、本県の魅力を積極的にPRしてまいります。

中小企業等への支援については、先般「おかもテクノロジー展2021」を開催し、県内企業や関係機関が最先端の技術や製品をアピールしたところであり、来年3月31日まで、オンライン展示会を継続して開



安心して豊かさが実感できる地域の創造について

催しております。引き続き、こうした取り組みを通じて、本県の技術力を県内外に発信し、新たなビジネスチャンスの創出に取り組んでまいります。

防災対策の推進については、南海トラフ地震を想定し、物資オペレーション訓練を実動により行ったほか、令和4年1月には、図上で応急対応訓練を実施することとしており、引き続き、市町村と連携し、県全体の災害対応力の強化に努めてまいります。

暮らしの安全対策について、県民総ぐるみによる犯罪抑止対策を推進したことなどにより、10月

末時点の刑法犯認知件数は、前年同時期と比べ約6.1%減少しております。一方で、特殊詐欺については、被害額が2億5,000万円を超えるなど、依然として深刻な状況にあることから、引き続き、「だまされんのじゃ岡山県・県民運動」を強力に展開し、被害の未然防止に向けた取り組みを推進してまいります。

地球温暖化対策の推進

については、改定された国の地球温暖化対策計画において、温室効果ガスの削減目標が大きく引き上げられたことから、省エネ対策やEVの普及促進など、これまでの取り組みも着実に進めながら、今後、県の行動計画の見直しを検討してまいります。

※その他の内容等については、岡山県議会ホームページ内にある、議会映像配信をご覧ください。



ご多忙の中、岡山県議会本議場まで傍聴にお越し下さいました。また、テレビ中継をご覧いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

- 岡山県議会ホームページ
<http://www.pref.okayama.jp/site/gikai/>
- 議会映像配信 (ライブ中継・録画中継)
<http://www.okayama-pref.stream.jfit.co.jp/>